



兵庫県立大学 生涯学習公開講座ダイジェスト

令和7年度 兵庫県立大学 生涯学習公開講座

【ソーシャルメディアで分かる人のつながりと社会のトレンド】

日 時: 令和7年7月26日 10:00-12:00

受講者数: 15人

会 場: 神戸商科キャンパス 情報科学研究棟 K102-104室

講 師: 土方 嘉徳

○テーマ・概要

SNS やソーシャルメディアの発展により、私たちの生活は大きく変化しました。外出するときにはスマートフォンを常に携帯し、外で見たことや感動したことをSNSに投稿するようになりました。本講座では、ソーシャルメディア上の行動データを分析することで人の心理や社会のトレンド、友人のつながりについて、どこまで解明できるのかを解説します。

○内 容

本講座では、はじめに人間のコミュニケーション媒体の変遷について紹介しました。人類はホモ・サピエンスと呼ばれる以前から、鳴き声や身振り手振りをを用いて、情報や感情を相手に伝えてきました。その後、文字の発明、紙の利用、郵便制度の整備、電話の発明といった技術の進化に伴い、使用されるコミュニケーションの手段も変化してきました。そして現在では、スマートフォンとソーシャルメディアが最先端の媒体となっています。ソーシャルメディアには、多くの投稿がアップロードされ、人々のつながり可視化されています。現代の社会科学や心理学では、こうした行動データを用いた研究が進められるようになってきています。

このような伝統的な社会科学の研究課題の一つに、人々の友人関係、すなわち「社会ネットワーク」の構造を解明するというものがあります。1960年代には、社会学者スタンレー・ミルグラムが手紙のリレー方式を用いてこの問題に取り組みました。その結果、世界中の人々が平均して6ステップ程度でつながるという「スモールワールド現象」が発見されました。

本講座では、MSN メッセンジャーやTwitter、Facebookといったサービスを対象に、大規模なネットワーク分析によって社会ネットワークの性質をより精緻に明らかにできることを示しました。さらに、SNSの投稿データを活用することで、自然現象の兆候や感染症の拡大、地域の治安状況などを推定できる可能性についても紹介しました。

最後に、講演者の研究テーマである、Twitterのプロフィール画像と投稿行動との関係についてご紹介しました。プロフィール画像が「顔出しで一人で写っている場合」「複数人で写っている場合」「アニメ調のオタク画像を使用している場合」などによって、投稿数やリプライ数、ハッシュタグの利用率などに違いが見られることを示しました。

